

江戸の寺



やくよけ祖師 堀之内 妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀之内 3-48-8

Tel: 03 - 3313 - 6241

Fax: 03 - 3313 - 5007

<http://www.yakuyoke.or.jp>

50



表紙

鐘楼

享保10年(1725)、當山10世東漸院日弘上人の代に檀家の大高甚五衛門が世話役となり、鑄物師の粉川右近によって梵鐘が鑄造され、最初の鐘楼が建立されました。明和6年(1769)の大火後の再建、文政4年(1821)の再々建を経て幕末期までに現在地の祖師堂東前に移築されました。

その後、戦時下においても供出を免れた梵鐘は、江戸の鑄物師の活躍を伝える貴重な作品であるとして、平成22年に杉並区の有形文化財に指定されています。

この梵鐘には「鐘の音は妙法の声 鐘を撞けば仏様と一つになる」という意味の銘が刻まれており、鐘の音を響き渡らせることで計り知れない功德を得られることが示されています。

毎日入相(閉門時)に梵鐘が打ち鳴らされる他、大晦日から元旦にかけての「除夜の鐘」には一般の方も大勢参加され、心を清め良い年を迎えようと、荘厳な鐘の音を響かせています。

### 宗歌

日蓮聖人最晩年の弘安五年に詠まれた歌です。

「生涯を振り返ると、ほんとうに様々なことがあった。命を失わんとしたこともしばしばであった。しかし、この身延のお山は、釈尊が法華経を説かれた靈鷲山と同じ。木々を渡る風も、川の流れも皆法華経の教え。今こうして身延の山で弟子、信徒に囲まれ、法華経に生かされる日々を送っている私の心は、実に安穩で豊かである。身も心も晴れ渡つてすがすがしい。」との思いがこの歌に込められています。

この歌は弘田龍太郎氏が作曲。現在、日蓮宗の宗歌となっています。

## 宗歌

### 日蓮聖人御詠

立ち渡る

身のうき雲とほれぬ

たえぬ御法みのりの鷲りゅうの山風

### 銘曰

新鑄大法鐘  
聲々皆妙法  
鐘乃譬法身  
少叩則少響  
感應亦如是  
恒出無辺聲  
隨類濟群萌  
撞之在衆生  
大叩則大鳴  
九界得一寧



平成の世から新しい元号に改められ 今年は新たな時代が始まります この教誌ほり乃うちが皆様のお手許に届く頃には 産声を上げ立ての世となっている事でしょう 果してどの様な時代となつて行くのでしょうか

平成三十一年の年始め お正月三箇日は天候に恵まれ 風の無い穏やかな日のもと 境内は綺麗に掃き清められ 多くの参詣の方々が妙法寺へ足を運んで下さいました 恐らく清々しい気持ちでお参りをされたことと思います

妙法寺では毎日山務員が境内の清掃に勤めておりますが 皆様御承知の通り 山内は町中では珍しくなりました大きな樹木が鬱蒼と繁り 季節ともなれば 夥しい量の落葉があります 彼方此方に散つた落葉を 入相の鐘が鳴る閉門の頃にはすっかり綺麗にしてくれるのですが 翌日にはまた同じ状況となり 掃くそばから辺りは落葉だらけと言つ事も屢々 これからの時期 常葉樹の葉の入り替わりがあり 一年中手を休める時節はありません 手を省けば 後で何倍もの手数が必要となつてしまいます 掃除といえば お釈迦さま時代のお弟子チュウラ・パンタカ(周利槃特)の話を思い出します 彼は自分の名前さえ忘れてしまい、自らの愚かさに途方に暮れていた所 お釈迦さまに「自分の愚かさに気付いている人は 智慧のある人」と諭され箒を渡されます そして「塵を払わん・垢を除かん」と日々

掃除しながら唱えました 糞て塵・垢は自分の執着の心である事を覚り 天眼覚りを得たそうです “煩惱無数誓願断”日頃私達が唱えている四弘誓願の一つで 仏となつて悟りを得ようと決心した菩薩が唱える誓願文です 私達は常に清き心を持つ良き人間でありたいと思いますが 心の隙間に欲望・怒り・執着心の三毒が起こりやすく 反省や悔い改める気持ちがありませんが 重ねて心身の苦しみを招き込んでしまう弱さを持ち合わせています

日蓮聖人は『観心本尊抄』の中で “釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す 我等此の五字を受持すれば 自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう” と妙法蓮華経の五字を受持するならば 自ら仏の因行と果徳の功徳を譲り与えられてお釈迦さまと同体の仏になれる との見解を示されておられます

私達凡夫は 仏さまのように立派な人格を持ち 日蓮聖人のような強靱な信念・慈心を備えた人になりたいと願いますが 掃いても掃いても庭に散る落葉のように三毒を生み 思い違ひもあれば ついつい楽な道に目を向ける習性を繰り返します

日蓮聖人の示されるみ教えを信じ 心から御題目を唱え お釈迦さまの菩薩時代の姿と言われる常不軽菩薩のように 自分を取り巻く環境や人々に敬意を払い 感謝の意を持ち 謙虚な気持ちで失わず 昭和・平成の時を経て 新しい世の始まりに正しい生き方を求め 過去の誤りを正しながら 成熟した社会 平和で心豊かな世の中を築いて行かねばなりません 今が大変良き機会だと考えます それには誰かが創ってくれるものではなく 私達一人一人が同心となり 創造して行くものと思います

新しい時代に兀々と精進いたしましょう

# 日蓮聖人の手紙

(二十八)

妙揚寺住職  
東京立正短期大学学長  
立正大学名誉教授

北川 前肇

「文永十一年二月十四日の御赦免状、同三月八日に佐渡の国につきぬ。同十三日に国を立てまうら(網羅)というつ(津)にをりて、十四日はかのつにとどまり、同十五日に越後の寺どまり(泊)のつにつくべきが、大風にはなたれ、さいわひ(幸)にふつかぢ(二日程)をすぎて、かしはざき(柏崎)につきて、次の日はこう(国府)につき、十二日をへて三月二十六日に鎌倉へ入りぬ。

同じき四月八日に平の左衛門の尉に見参す。本よりごせし事なれば、日本国のほろびんを助けがために、三度いさめに御用ゐなくば、山林にまじわるべきよし存ぜしゆへに、同五月十二日に鎌倉をいでぬ。(中略)

これほどのかた(難)かりし事だにもやぶれて、かまくらへかへり入る身なれば、又にしきをきるへんもやあらんずらん。其時、父母のほかをもみよかして、ふかくをもうゆへにいまに生国へはいたらねども、さすがこひしくて、吹く風、立つくもまでも、東のかたと申せば、庵をいでて身にふれ、庭に立ちてみるなり。」

## 訳

文永十一(一二七四)年二月十四日、私(日蓮)の佐渡流罪の赦免状が下され、弟子の日朗上人によつて、三月八日佐渡の私のもとに届きました。そこで帰り仕度をして、十三日に佐渡一谷の配所を出発し真浦の港に着き、十四日はそこに泊まり、十五日は越後の寺泊(新潟県長岡市)に到着予定が、大風のために船が流され、二日ほどたつて柏崎に着きました。つぎの日は越後の国府(上越市)に着き、それより十二日間の旅程をへて、三月二十六日に鎌倉へ着きました。

同じ年の四月八日には、平の左衛門尉頼綱と対面しました。日本国の滅亡を救うために、三度国主を諫め、もし私の意見が採用されなければ、山林に身を置くということを、もとより覚悟していましたので、五月十二日に鎌倉を發つてこの身延の山に入ったのです。(中略)

あれほど難しい佐渡流罪がゆるされて、鎌倉に帰ることのできた私ですから、ふたたび名譽なことが出来る機会があれば、故郷へ帰ることもありましょう。そのとき、父母の墓をお参りしようと、深く思いをいたしておりますので、いまだ故郷へは帰っていませんが、しかしさすがに故郷は恋しく思われて、吹いてくる風や、立ちのぼる雲が東方からといえば、草庵を出て、身にふれ、庭に立つて見るばかりです

(建治二(一二七六)年三月・『光日房御書』・昭和定本一一五五〜六頁)

## 解説

身延山の日蓮聖人のもとに、故郷の安房国天津(千葉県鴨川市)に在住の女性信徒の身であった子息の弥四郎の死去のことが記されていました。そして弥四郎は、人をあやめる仕事であったことから、苦しみの世界(地獄や餓鬼等)に堕ちているのではないか、との問いに、子息は幼少の頃から法華經を信じ、また母尼の法華經による追善の回向によって、必ず成仏されるでしょう、と導かれているのです。

日蓮聖人の生涯

【第八回】

遠藤教温

星下りの奇蹟

「龍ノ口法難」で斬首を免れた日蓮聖人は、相模の依智(厚木市)に向かい、佐渡の守護代本間重連の館に入りました。斬首は中止となり、改めて佐渡流罪となったのです。

文永八年九月十三日の夜、本間邸の庭に降り立った日蓮聖人は、天空に輝く月に向かって、「そもそも今の月天子は、その昔

釈尊が法華経を説かれた席に列席し、『法華経の行者を護る』と誓ったのではないか。

いかに月天、いかに月天！」と月天子を諫めました。すると空から明星のような大星が庭に降り、梅の枝にかかりました。空はにわかにかき曇り、江の島の方角に雷鳴が轟きました。「星下りの奇蹟」として今に伝えられ、厚木市金田の本山妙純寺、同上依智の妙傳寺、同中依智の蓮生寺がそれぞれに歴史を伝えていきます。

その後約一カ月間、聖人は依智に留められました。幕府は日蓮聖人一人だけでなく一門の弟子や信徒などにまで迫害を加えました。日蓮聖人ら五人は捕らえられて入牢。信徒は所領や家宅の没収などに処せられ、信徒の多くは信心を捨て、離反してしまいました。日蓮聖人一門にとって最大の危機となったのです。

土牢への思い

そして十月九日、明日はいよいよ出発という前日、佐渡流罪の身となった日蓮聖人は、土牢に閉じ込められている日朗上人に手紙を送ります。





「日蓮は明日佐渡の国へまかる也。今夜の寒きに付けても牢の内のありさま思い遣られていたわしくこそ候へ。あわれ殿は法華經一部を色心二法共にあそばしたる御身なれば、父母六親一切衆生をも助け給うべき御身也。法華經を余人の読み候は、口ばかり言葉ばかりは読めども心は読まず、心は読めども身に読まず、色心二法共に遊ばされたるこそ貴く候へ。天諸童子 以為給仕 刀杖不加 毒不能害と説かれて候へば別の事は有るべからず、牢をばし出させ給い候わばとくとく来たり給へ。見奉り見え奉らん。恐々謹言」

『土牢御書』

法華經というものは口だけでなく心で読まなければならぬ。心だけでなく体で読まなければなりません。体で読むとは法華經を實踐するということです。法華經の教えを實踐しなければ本当に読んだことにはならないのです。多くの人は、法華經を口だけで読んでいます。心で読んでも実践はしていません。あなたはよく体で法華經を読まれました。今夜はことのほかの寒さです。牢の中はいかばかりでしょう。どうしておられるかと本当にいたわしく思い遣られてなりません。

法華經を広めるならば、必ず恨まれ、妬まれて大難に遭うとは經文に示されています。

す。あなたが大難に遭っているのは法華經を身をもって読んだことになり、仏になる証しでもあります。牢を出られたら会いに来て下さい。お会いしましょう。というお手紙です。自らが明日は佐渡へ流罪になるというのに、何という温かな思いやりの心でしょう。この手紙を読んだ日朗上人は勿論、牢番さえもが涙をこらえることができなかったといわれています。

日蓮宗の寺院は、全国に約五千ヶ寺あります。その中でも、特に縁の深い寺院のつながりを「法縁」と呼んでいます。ここでは、堀之内妙法寺を中心とする「堀之内法縁」に属する寺院を紹介していきます。

# 城根山 妙蓮寺



住職 柳下 俊明



本堂に祀られている御本尊(一塔両尊四士)

当山は、城根山・妙蓮寺と号し、横浜市都筑区内唯一の日蓮宗寺院です。現在は横浜市営地下鉄グリーンライン・川和町駅より徒歩七分で境内に着くことが出来ます。この川和という地は、武蔵国都筑郡川輪村と呼ばれ、鎌倉時代の初期は源氏の家臣熊井太郎忠元の領地でその館が小字城古場にあったと言われ壘蹟むいせき

が今でも当山山頂にあります。武蔵風土記によれば、今からおよそ七百年前、室町時代初期北朝康永三年(一三四四)大聖人の孫弟子、朗門ろうもんの九鳳くほうの一人である越中阿闍梨朗慶上人えちゅうあじやり ろうけいが草庵を構え開山されました。朗慶上人は中延の生まれで中延法蓮寺の開山上人でもあります。日朗上人の弟子である朗慶上人は故郷中延と鎌倉比企谷との間のこの地を通り往復されたと思われます。従って当時この地に足を留め、村人の信徒達に法を説き、その中に熊井太郎忠元の子孫が居て朗慶上人に帰依し、熊井太郎忠元の百回忌の折りに、昔の館跡であった処に草庵を建て、ここから鎌倉や中延に通われたのではないかと考えられます。



鐘楼▼



▲妙蓮寺本堂  
◀山門



その後、長祿年間（一四五〇）頃まで途絶えて  
 おりましたが、江戸谷中感応寺（現在天台  
 宗天王寺）中興・碑文谷法華寺（現在天台宗  
 円融寺）第六世の長全院日耀上人により  
 再興され、享祿三年（一五三〇）第四世長光

院日慶上人により山腹の草庵を現在の地に移  
 転、城根山妙蓮寺と称されました。その十年  
 後には、本生坊・本光坊・永学坊・常光坊と言  
 う塔頭も出来、日耀上人が碑文谷法華寺在  
 住の時のような繁栄を示されました。これも



▲祖師像とその胎内にある  
 朗慶上人の彫刻による祖師像（円内）  
 ◀開山朗慶上人像  
 行学院  
 日朝上人像▶

▼祖師堂



日耀上人が朗慶上人を崇敬して百余年衰微  
 し続けた草庵を再興したその努力によるもの  
 だと思われれます。

元文年間（一七三〇頃）の火災により建物  
 すべてを失いましたが、寛政五年（一七九三）  
 に八間四面の本堂を再建。文政九年（一八二  
 六）に四間四面の祖師堂も再建されました。

大改修、昭和六十三年釈迦堂新築、立教開宗  
 七五〇年・開山六五〇年慶讃事業として平成  
 八年に祖師堂の新築・平成十年の七面堂の移  
 転新築、宗祖降誕八〇〇年・開山七〇〇年慶  
 讃事業として平成二十九年山門の屋根替え  
 周辺整備、本年平成三十一年には、本堂の屋  
 根替え耐震補強工事が行われており、年末  
 には完成に至ります。

昭和四十二年に鑄  
 造され現在に至り  
 ます。また、近年に  
 は昭和四十三年に  
 本堂の屋根替えと

守護神でもある  
 末法総鎮守七面大明神のご尊像▼



七面堂▶



平成八年に新築された祖師堂に  
 は、中央に等身大の日蓮聖人祖師  
 像が祀られ、その胎内には、朗慶上  
 人の作と伝わる胎内仏も安置され  
 ています。左側には等身大の開山朗慶上人像、  
 その左側には、塔頭でありました泰運院の

祖師像と眼病平癒の日  
朝堂に祀られておりま  
した行学院日朝上人  
像が祀られております。

▼三十番神像



中央より右側には三十番神像、その右側には  
子安鬼子母神と五道天尊が祀られております。

七面堂は、七面宮と言われ三間四面の社で、  
七面山が江戸時代より当山裏山に存在しま  
したが、近年の土地開発により昭和三十年代  
に七面山自体も開発により崩され山頂より  
境内墓地近くに移転、平成十年に再度現在  
の地に移転新築建立されました。その当山の  
守護神でもある末法総鎮守七面大明神のご



▲安産と子育ての  
鬼子母尊神像と五道天尊

が絶えず詣でたと武蔵風土記にも記されて  
おり、当山の繁栄の礎が築かれました。

江戸時代寛保年間に描かれた寺宝の大涅槃  
図が毎年釈尊涅槃会にお開帳されます。



◀釈尊涅槃会で  
お開帳される大涅槃図

### 妙蓮寺

〒224 - 0057  
神奈川県横浜市都筑区川和町977  
☎045 - 931 - 1006  
【最寄り駅】  
●横浜市営地下鉄グリーンライン  
川和町下車徒歩7分  
【最寄りバス停】  
●川和町郵便局下車徒歩1分

# お祖師様と私

このコーナーでは、当山とゆかりのある方々をご紹介いたします。

## 第二十八回

妙法寺檀家総代

武見 錠二さん



昨年四月に

亀井執事長より  
檀家総代の一員に  
加わる様お電話を  
頂き戸惑いを感じ  
躊躇していました。

目を改めお会いしてお話を聞くと「武見さん  
は、武見日恕上人との繋がりも有り是非とも

お受け頂きたい」とのお話でした。

「日恕上人」のお名前が出て来たら問答無用  
お受けせざるを得ません、何故なら父太郎から  
日恕上人がどの様なお方だったか事ある毎に聞  
かされていたからです。

この様な経緯で昨年檀家総代の一員に加え  
て頂いた新人檀家総代であります。

さて本題の「お祖師様と私」と成りますと、  
まず初めに出て来るのは、お題目「南無妙法蓮  
華經」であります。

このお題目を何時頃知ったか覚えてたかを記憶  
を辿っても思い出すことは叶いませんでした。  
幼少期の頃両親に連れられて祖師堂にお参  
りに行っているうちに覚えたのでしょうか。

その頃は、境内に多数いた鳩にエサをやる面  
白さをエサに妙法寺に連れてこられ喜んでいま

# 堀之内 質問箱

その16

# 毎月 行事の 「七字会」

し  
ち  
じ  
か  
い

## Q 七字会って何？

毎月十九日、妙法寺に集まって七面

大明神さまにお参りする信行会のことです。

七字会の名前は南無妙法蓮華經の七文字から

とったものです。



▲本堂の  
七面大明神像

## Q 七面大明神さまって どんな神様？

七面大明神さまとは、身延山の

守護神のごことで法華經を信仰し、お題目を唱え

る人々を守護してくださいます。

したが、少青年期になると「何でお参りに行か  
なくてはならんのか？」と思いつつも両親の  
お供で参拝しておりました。

結婚して所帯を持って  
からは、自らの意志でお  
参りに出向くようになり  
両親を亡くしてからは、  
生前の両親同様に機会が  
有る事にお参りに訪れる  
ようになりました。

そうしてお参りを繰り返  
返しているうちに自分なり  
にお参りの意味が見えて  
来そうな今日この頃です  
が果たしてお祖師様は「何  
と思いつらっしゃるのかなあ」

## 武見家と 妙法寺の つながり

妙法寺第29世武見日恕上人は、嘉永6年  
(1853)、新潟県関原村(現長岡市)にて誕生  
されました。幼少より聡明であった日恕上人は、  
10歳の時に日蓮宗の僧侶になることを志します。

しかし、武見家はもともと浄土真宗の篤信の家柄であったため、  
両親の猛反対にあいますが、揺るぎない信念を持った日恕上  
人はこれを説き伏せ、治曆寺にて出家得度、後に武見家は  
親族揃って日蓮宗へと改宗しました。その後、飯高檀林や  
身延山で行学に励み、34歳で妙法寺山主となります。

後進指導に熱心だった日恕上人は、地方から都内の高校  
や大学に学ぶ学生のための寄宿舎である「茗谷学園」を  
小石川に設立。宗門子弟のみならず広く一般家庭の子弟  
も受け入れ、ハンセン病患者救済の先駆者である綱脇  
龍妙上人や石橋湛山元首相を輩出するなど、宗門内外  
の人材育成に大きな足跡を残されました。

現総代武見錠二さんの父、武見太郎氏は日恕上人の甥  
にあたります。幼いころより日恕上人の薫陶を受けて育った  
太郎氏は長じて医師となり、25年の長きにわたり日本医師  
会会長を務め、国民皆保険を実現させるなど、卓越したリー  
ダーシップを発揮されました。また、世界医師会会長も歴任  
され、日本そして世界の医療界の発展に尽力されました。

と思いつつも今後もお参りを続ける新人檀家  
総代でございます。



伝承によれば建  
治三年（一一七七）  
日蓮聖人が、身延山  
の草庵から数丁ば  
かり登ったところ  
の大きな石の近くで、  
いつものように法  
を説いていると、  
聴衆の中に若い女  
人がいて熱心に聴  
聞していました。

居並ぶ弟子や檀越たちも、この山深い所で見慣れない妙齡な姿だといぶかしく思いました。大聖人は皆の不審を感じとられ、女人に向かつて「そなたの姿を見てみな不審を抱いている。本

体を見せてやりなさい」と言ったところ、女人は笑みを堪え「お水を少し賜りとう存じます」と答えました。そして、大聖人は水差しから一滴の水を女人に落とすと、たちまち姿を変じて一丈あまりの竜となり、恐ろしい姿でなみいる人々をおののかせました。ややあつてもとの美しい女人の姿にもどり「わたくしは七面山に住む七面天女です。身延山の鬼門をおさえてお山を守る法華経の護法神として、今かりそめの姿を現しました。人々が法華経を読み、題目を唱え、至心に私に祈るならば、心の安らぎと満足を与えるでしょう」と言い終わるや、七面山の方へ飛び去って行きました。その場に居合わせた人々は、この光景を目の当たりにし、随喜の涙を流して感激しました。

その後、大聖人は「いつか七面山に登って七面大明神を祀ろう」と考えていましたが、弘安五年（一一八二）に池上の地でご入滅されてしま

た。これが七面山の開創で、永仁五年（一一九七年）九月十九日のごことでした。それから時が経つにつれて七面大明神信仰が

います。それから十六年後、弟子の日朗上人は南部公らと共に、七面大明神をお祀りするために初めて七面山へ登りました。当時の七面山は道無き山でしたが、一行は尾根伝いに登ったと言われています。山頂付近に着くと大きな石があり、その前で休息したところ、この大きな石の上に七面大明神がお姿を現され、一行をお迎えしました。

日朗上人はこの大きな石をおせいし影響石えいげいしと名付け、その前に祠を結んで七面大明神をお祀りしまし



▶ 本堂の七面大明神様へお経を捧げる様子  
▼ 祖師堂での御開帳



全国に広まり、各地で勧請されるようになり  
ました。妙法寺でも勧請した年代は不明ですが、  
七面大明神さまをお祀りしており、今日の  
七字会につながっております。

### Q 当日の流れは？

本堂に集合していただき、十三時から七面大  
明神さまにお経を捧げます。そしてお経が終わっ  
たあと、祖師堂に移動してお開帳をします。そ  
のあと控え室にて軽食をいただきながら茶話会  
をして、解散が十四時半頃となります。

初めての方も気軽に！ご参加いただき、同じ信  
仰を通してめぐり逢う、有り難いご縁を分かち  
合いましょ。

### 七字会のご案内

予定されている  
七字会は、九月の  
大祭を含め次の通りです。  
八月には戦没者慰霊祭もございませう。  
ぜひご参加ください。



七字会での茶話会

- 4月19日(金)
  - 5月17日(金)
  - 6月19日(水)
  - (7月は夏休み)
  - 8月15日(木)戦没者慰霊祭
  - 9月19日(木)大祭
- 【時間・場所】 十三時より本堂にて  
【参加費】 一回千円(1月新年会、8月  
慰霊祭、9月大祭は二千円)



## かわら版

当山の行事やご祈願などをご案内するコーナーです。

記事についてのお問い合わせは、  
お気軽に寺務所まで。

《電話》03-3333-6241

### ◎ 法華千部会のご案内

本年も五月十日(金)～五月十三日(月)の  
期間、法華千部会を厳修致します。

法華千部会は、江戸時代より二百年を越え  
て行われている伝  
統行事の一つです。



▲天童稚児音楽大法要のお稚児さん

法華経は壹部読むだけでも大変功德があ  
るため、千部会の賛助者(千部施主)となる  
功德にご利益は計りしれません。皆さまも  
千部施主の一人となり、その大きな功德をい  
ただき、除厄安全・身体健全・心願成就など  
をお祈り致しましょう。

■ 五月十日(金)お経揃い…十九時

■ 五月十一日(土)～十三日(月)

お経 …… 十時・十三時半  
法話 …… 十二時

● 千部施主 一名 五千円也

(お開帳・お経頂戴・お食事含む)

■ 五月十一日(土)天童稚児音楽大法要…十三時半

● 天童稚児 一名 五千円也

(貸衣装・記念写真含む)

※詳細は、別紙の申込書をご覧ください。



妙法寺では年に一度、日蓮聖人ゆかりの地へ団体参拝をしております。昨年は身延山でした。今年は十一月頃に予定しております。ぜひ皆さまお誘い合わせの上、ご参加ください。

### ◎ 妙法寺団参のご案内

- 〈日時〉 七月二十七日(土) ……九時～十六時(随時受付)
- 〈場所〉 祖師堂
- 祈願料 一名 三千円より

除くために始められたものです。

「孟蘭盆」は、目連尊者が母親を餓鬼界から救う話が由来となっています。目連尊者は、お釈迦様に教えられたとおり、修行僧たちをもてなして供養を施し、その功德で母親を餓鬼界の苦しみから救うことがで

### ◎ 孟蘭盆施餓鬼会

「孟蘭盆」は、目連尊者が母親を餓鬼界から救う話が由来となっています。目連尊者は、修行僧たちをもてなして供養を施し、その功德で母親を餓鬼界の苦しみから救うことができた時代から、その障りを

四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆は新盆または初盆といい、特に丁寧に供養を営みます。当山では、新盆を迎えたお檀家様の各霊位を供養する法要を営みます。

- 〈日時〉 七月十三日(土) ……十三時より
- 〈場所〉 本堂

※各家には、ご案内・申込書をお送りします。

### — 新盆会 —

▼ お檀家の皆様と新盆会



▲ 孟蘭盆施餓鬼会の様子

きました。お釈迦様が説かれたのは、身内や自らが仏に成ることが目的ではなく、他人を導き救うことこそが自身の父母・先祖を救うことに繋がってゆくというものです。

「孟蘭盆施餓鬼会」は、先祖の霊と共に有縁無縁の霊、法界万霊を供養し、全ての生きとし生けるものに感謝する法要です。

- 〈日時〉 七月十六日(火) ……十三時より
- 〈場所〉 本堂

### ◎ 土用の丑ほろく灸

夏の「土用の丑の日」に行われる行事です。頭痛は悪鬼の障りによって起こると信じられていた時代から、その障りを



### ◎ 妙法寺門前通り商店会

妙法寺では境内を開放し、妙法寺門前通り商店会主催のイベントが行われております。子どもから大人までふ



▲ ふれあい祭り



▲ 千日紅市

- ふれあい祭りの予定…六月二十三日(日)
- 千日紅市の予定…十一月三日(日)

### 右記のお問い合わせは

妙法寺門前通り商店会(清水屋)まで  
電話 〇三―三三三―一〇七二五

# 「どっこい生きてる」

友だちがいるから、けんかして泣いたり、笑ったり、遊びあって…そこには、日々の生活のドラマがあります。

## 東京立正保育園 「保育の営み」



● みんなで栽培活動(3歳)

● さんぽ中(1歳)

● 流しぞうめん(2歳)

目は、**「丈夫なからだづくり」**です。

**1 おいしく、楽しく、食で育む心とからだ**

畑で野菜を育て、食べてみると、何ともみずみずしい「うわー生きてるこのキュウリ」と子どもたちの喚声…生命をいただき、野菜嫌いも一挙に解決です。

二つ目の特徴は、**「散歩」**です。

**2 自然は教材の宝庫**

年齢発達に伴い課題に応じて、ホームベース(散歩地)を決めて出かけています。

一定期間同じ場所に出かける事で目的地までの空間認識が育ち、危険場所など子どもた

ち自身で判断出来るようになり、たのもしくなります。活動を豊かにするには、乳幼児自身がどれだけ充実感・満足感を得ているかが重要と考えています。

三つ目には、**「リズム遊びと歌」**があります。

**3 心身共に解き放つ**

心もからだも解放して、しなやかにからだを動かす遊びです。はずむ喜び、表現する楽しさ、友だちと共有共感する喜びを感じ、子どもたちが人間としての誇りの感情(自己肯定感)



● 楽しい(を振り)



● リズム遊び(2,3歳)

東京立正保育園が昨年四月に開園し、堀之内学園の基本理念であります法華経に基づく人類普遍の価値「生命の尊重・慈悲・平和」を位置づけ歩み始めました。

保育園という環境を通して子どもの生命を守り育て、保育士は慈悲の心を持って心穏やかに子どもを育て、保護者や地域の子育て家族と連携し支援していきたいと考えています。

また、現在(いま)の幸せと未来(あす)を生きる力を育てていく事に責任をもつ保育園でありたいと思います。

保育園の特徴は三つあり、一つ

をもてる生活をつくっていくことが保育士の使命です。

大人の目を気にして動いたり、「これでいい?」と、不安がったりと、一見ひ弱に見える子どもたちが園生活を通して、「どっこい生きる」その土台を立正保育園は実践で、立正短大は理論学習で連携し合いながら担っていききたいと思えます。

園長 石田幸子

# Open Campus

全てはコミュニケーションから始まります。

東京立正短期大学  
現代コミュニケーション学科  
(共学)

現代  
コミュニケーション  
専攻

幼児教育  
専攻  
保育士・幼稚園教諭  
養成課程

心理  
コース

ビジネス  
コース

観光  
コース

本学の  
奨学金制度を  
ご利用  
ください。

私たちが持っている!!  
心を通じ合い、互いに信頼し、受け入れ合うチカラ。

## SCHEDULE

オープンキャンパスの日程

平成31年: 4月20日(土)	全日10:30~開催 いたします。
4月27日(土)	
4月28日(日)	※日程が変更になる 場合がございます。
5月11日(土)	
5月18日(土)	詳細・最新情報は ホームページにて ご確認ください。
6月 8日(土)	
6月15日(土)	予約制
6月22日(土)	
7月13日(土)	文化祭同時開催
7月20日(土)	
7月28日(日)	
8月 9日(金)	
8月10日(土)	
8月24日(土)	
8月25日(日)	
9月 7日(土)	
9月21日(土)	
9月29日(日)	



東京立正短期大学  
Tokyo Rissho Junior College

〒166-0013 杉並区堀ノ内 2-41-15 TEL 03-3313-5101 FAX 03-5377-7641  
URL <http://www.tokyorissho.ac.jp/>



完全中高一貫プログラムのグランドデザインで  
国際社会での活躍を目指した  
真のグローバルリーダーを育てています。

まずは、学校説明会・ホームページへ。

## 2020年度入学者対象 学校説明会日程

### 中学校

2019年 6月19日(水)	10:00
2019年 7月13日(土)	10:00
2019年 9月14日(土)	14:30
2019年 9月28日(土)	13:00☆
2019年 10月12日(土)	14:30
2019年 11月 9日(土)	10:00
2019年 11月 9日(土)	10:00
2019年 12月 7日(土)	10:00
2020年 1月11日(土)	14:00
2020年 1月18日(土)	10:00

### 高等学校

2019年 7月13日(土)	14:30
2019年 9月29日(日)	10:00☆
2019年 10月26日(土)	14:30
2019年 11月 2日(土)	14:30
2019年 11月 9日(土)	14:30
2019年 11月16日(土)	14:30
2019年 11月30日(土)	14:30
2019年 12月 7日(土)	14:00

※中高共に☆の日は学園祭を予定しています。

いずれも、会場は本校です。上記日程は変更になる場合がありますので、必ず最新の日程をホームページで事前確認の上、お越し下さい。



学校法人 堀之内学園

東京立正 中学校  
高等学校

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15  
TEL 03-3312-1111 FAX 03-3312-1620

URL <http://www.tokyorissho.ed.jp/>



墓石・記念碑門塀  
諸石材工事  
有限公司

中島正石材

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-1-31  
TEL 03-3322-8846  
FAX 03-3322-8821

ご葬儀をご想儀へ

ムラカミの安心と信頼が  
皆様の想いを  
サポートいたします。

ご家族葬から  
社葬・団体葬までご対応。  
1級葬祭ディレクターが  
責任を持って担当いたします。

365日24時間 自社所有の  
寝台車による速やかなお迎え。  
霊安室も完備しております。

AAA 葬祭業安心度調査  
AAA評価

JECIA格付  
★★★★認定

村上葬祭  
株式会社 ムラカミ

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-28-2  
<http://www.murakami-sousai.co.jp>

ご葬儀・ご法要をはじめ、ご不明な点について、  
無料でご相談にお応えいたします。  
24時間・365日ご対応 ☎ 0120-711-556

仏壇・仏具・位牌  
みす平は創業300有余年の神・仏具の専門店  
オーダーメイドでの仏壇製作から、古くなった仏壇・仏像・位牌  
などの修理、修復も承ります。

良品  
安値!

みす平は10年後、20年後の信用を大切にします。

神・仏具のみす平  
株式会社みす平飛天堂  
☎ 042-334-9981 FAX 042-334-9982  
〒183-0045 東京都府中市美好町1丁目30番地の13  
<http://www.misuhei.co.jp>

清水屋

御菓子司

〒166-0013  
杉並区堀ノ内 3-48-3 ☎ 03-3311-0725

【営業時間】和菓子 ◆ 10時～17時  
手打ち蕎麦 ◆ 11時～18時 (以後はご予約のみ)  
◆ 火曜日：11時～15時  
※いずれも蕎麦がなくなり次第終了

【定休日】和菓子 ◆ 火・水曜 ※三のつく日は共に営業  
手打ち蕎麦 ◆ 水曜 致します。(振替休日有)

編集後記

本年は己亥つちのとこであります。殻を破り、新たな姿を生み出す  
と言う意味があります。十二支では「亥」が当てられ、その  
姿はまさに勇猛であり、環境への適応能力にも優れ、生命力  
の強さを示しています。

干支では、最後の十二番目に当たり、「平成」の御代みよから  
新たな時代へと移り変わる大切な  
時期であり、平和で災害のない穏や  
かな時代へと猪突猛進して行きたい  
ものです。

教雄記

教誌編集委員

委員長	小田雄
委員	田嶋教
	吉田教
	山田教
	山形教
	石川教
	宇都宮教
	亀井教
	望月教
	戸田教
	藤原教
	望月教

はりす